

岩手大学 MDASH 応用基礎プログラム（教育学部） 令和5年度 自己点検・評価結果について

● プログラムの履修・修得状況

本教育プログラムを構成している全学教養教育科目「情報基礎」及び教育学部教職科目「プログラミング基礎（ICT 活用を含む）」は教育学部1年生の必修科目となっており、全学生がプログラムを履修し始めている。令和5年度末現在、プログラムを履修している学生は、177名となっており申請対象学年を母数とすると100%の履修率となる。また、学生の履修状況（履修申告から課題の提出等）については、本学が導入しているWeb Class（LMS）を通して、科目を履修している担当教員及び教学マネジメントセンター並びに教育学部FD担当、学務担当が把握することができるシステムとなっており、各授業科目の習得状況やプログラムの改善等についての審議を行っている。

● 学修成果

全学教養教育科目「情報基礎」に対するアンケートでは全35項目の質問中、学生が学習の効果を回答する項目が4件法で9つ設定されている。質問「提出物（宿題・レポート等）に対し、納得いくまで取り組みましたか？」の質問では、「そう思う」と「少しそう思う」と回答している学生が97%となっている。教育学部の教職専門科目「プログラミング基礎（ICT 活用を含む）」では、全20項目の質問中、学生が学習の効果を回答する項目が5件法で2つ設定されている。このうち、シラバスで示された「授業の目的、到達目標を達成できた」という質問に対して、「おおいにそう思う」「どちらかといえばそう思う」とポジティブに回答した学生は82%となっている。

● 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

全学教養教育科目「情報基礎」では、前項目と同様のアンケート調査の結果、「この授業におけるあなたの学習は、満足できるものだと思いますか？」の質問では63%の学生が「そう思う」と回答しており、「少しそう思う」を加えると93%の学生が満足いく学修が行われたと回答している。教育学部の教職専門科目「プログラミング基礎（ICT 活用を含む）」では、「授業を通して新しい見方・考え方や知識を獲得できた」という質問に対して、「おおいにそう思う」「どちらかといえばそう思う」とポジティブに回答した学生は94%となっている。これらのことから本指導プログラムの内容理解度は高いものと判断できる。

● 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

全学教養教育科目「情報基礎」では、必修科目のため授業評価アンケートにて「後輩等に推奨したいか」という質問は設定していない。学修の有用感や満足感を問う質問項目のうち、「この授業で学んだことは、あなたにとって、今後役に立ちそうだと思いますか？」の質問

では 93%の学生が「そう思う」と回答しており、「少しそう思う」を加えると 98%の学生が「情報基礎」に対する有用感をもっている。教職専門科目「プログラミング基礎（ICT 活用を含む）」では、「この授業は総合的にみて満足のいくものであった」について、83%の学生がポジティブに回答している。

これらのことから「後輩等他の学生への推奨度」については高い水準になることが推察される。

● 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

本教育プログラムを構成している「情報基礎」は全学教養科目及び教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に該当する科目であり、履修率は 100%である。また、本学教育学部が平成 30 年度より独自に設定した「プログラミング基礎」を、令和 4 年度「情報通信技術を活用した教育に関する理論及び方法」導入に合わせてリバイスした「プログラミング基礎（ICT 活用を含む）」についても教育職員免許法上も必修科目となっており、履修率は 100%である。トータルとして令和 5 年度（本プログラム初年度）に設定されている 2 科目の履修率は 100%である。

● 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

本プログラムの修了生が卒業する令和 8 年度以降に、岩手県教育委員会及び企業等への卒業生アンケート項目に本プログラムの効果を問う設問を用意して外部の評価を受けつつ、その結果を踏まえてプログラムの改善に役立てる予定としている。

● 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

岩手大学では、例えば NTTdocomo、岩手日報社等様々な産業界の企業と連携協定等を締結して教育・研究を推進している。また、本学教育学部は教員養成学部として毎年入学者の 60%程度を教員として送り出していることから、特に地元岩手県教育委員会とも常に意見交換を行っている。このような連携を活かして、本指導プログラムに対する意見をいただくだけでなく「プログラミング基礎（ICT 活用を含む）」の一部講義では、NTT グループ及び岩手県立総合教育センターの研修指導主事を招請し、産業界からの視点を含めた内容を取り入れている。

今後もこのような多くのチャンネルを通して、産業界からの視点を含めた本プログラムの PDCA を推進していく予定である。

● 数理・データサイエンス・AI を「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度にて記述した内容に加え、全学教養教育科目「情報基礎」では、「この授業で学んだことを、さらに勉強したいと思いますか？」の質問に対して、「そう思う」と「少しそう思う」とポジティブに回答している学生が 92%

となっている。教職専門科目「プログラミング基礎 (ICT 活用を含む)」では、「授業を通して新しい見方・考え方や知識を獲得できた」に対して、94%の学生が「おおいに思う」「どちらかといえば思う」とポジティブに回答している。

これらのことから、数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させることができていると推察される。

- **内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること**

全学教養教育科目「情報基礎」では、アンケート調査の結果「教科書や参考書、配布資料等は、学習の助けになりましたか？」については、「そう思う」と「すこしそう思う」と回答している学生が97%となっている。教職専門科目「プログラミング基礎 (ICT 活用を含む)」では、「補助教材 (資料、教科書、スライド、黒板など) は学習の助けになった」について、90%の学生がポジティブに回答していることから、引き続き、Web Class (LMS) による事前資料配付等の充実を図る予定である。また、今後は急速に進展する生成AI等を素早く取り上げるため、教養教育に追加される「情報に係る選択科目」を活用するなど、本プログラムの充実を図ることになっている。